

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4		
自己評価作成日	平成23年8月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373800386&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族、ご本人がどこよりも此処で暮らせて良かったと思って頂けるケアを目指し、人生の先輩である事を念頭に置き、言葉遣いにも配慮し、今のこの一時を何よりも大切にしたいケアを実践したいと考えている。
 昨年のご家族同士の交流を深めるよう計画した参観日にも多数の参加を頂き、この交流の継続希望もあった。利用者様とご家族様の笑顔ある生活の手助けが出来るよう努力し、目標であった“気持ち良い挨拶を”継続しながら更なる質の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホーム「百」が誕生して7年を越えた今、利用者の高齢化に伴う心身の重度化は、いくら職員の手厚いケアが良くても多少は進行していくのも仕方ない事だろう。しかし管理者・職員は、私を知る限り精一杯の努力で「今、その人」の気持を大切に、尊厳を持って接していこうとしている。その頑張りのおかげだろう。Aさん・Bさん・Cさんも以前の訪問時と余り変わりの無い今日の出会いは嬉しくなった。家族の方々や地域の人からもこのホームの存在を高く評価し、「有難い」と言う言葉が伝えられている。このホームに隣接して第二のユニットが建設される予定があるとも聞いた。2ユニットになればそれぞれの役割や特性も生じて益々この地域への貢献度も高まるだろう。新生を期待している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げ、人生の先輩である事を忘れずに出来る事はして頂きながらお手伝いをさせて頂くケアを心掛けている。	「いつも心掛けていること」の玄関に掲げた理念を、常時声掛けの中にその気持を含めて対応するようにしている。一人ひとりの利用者が一瞬でも不満を感じない日常を理想としているが、マンパワーの不足で思うようにならない時もある。そういった時も可能な限りフォローをしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為地域の方との交流は少ないが、隣接する施設との付き合いも交流と考えている。	同じ敷地内の施設と共に実施している「さやか祭り」では家族や地域のボランティアの方々の協力や参加があり、良い交流ができています。運営推進会議の提案や意見交換の中には、園児のホーム訪問依頼等もみられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の運営推進協議会への参加もあり、理解を得ていると考える。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告し、ケアにて困難事例の相談やアドバイスをケアに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している。	2ヶ月に1回、家族や地域住民・町の担当者その他の出席を得て意義ある話し合いや報告が行われている。ホーム内の問題点もこの場で情報を開示しアドバイスして貰ったり、地域交流の橋渡しをしてもらっている。	運営推進会議を活かした取り組みがよく何われるが、この会議ではホームの実態把握や運営に関わる重要な情報が多いので、欠席した家族等にも個人情報に配慮しながら報告し、意見を求めている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もあり、アドバイスを頂く等して関係を築いている。	町の福祉課長や健康推進課長は運営推進会議に必ず出席している。都合で出席できない時は代理の職員が出席する等、非常に協力的だ。ホーム側からの困難事例等についてもよく相談・指導をしてもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在の実施(窓施錠者あり)状況を把握し、状況に応じてご家族とも相談しながら対応している。	居室の窓を乗り越え転落の恐れが予測される状況については、身体拘束検討委員会で検討し、マニュアルに従って家族の理解を得る等して窓の施錠をしている。職員研修でも身体拘束をしないケアの研修を実施している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし、情報の共有化をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去利用者様(退所者)には成年後見制度の在籍者もあり、職員は概ね理解している。又、研修にも参加にて資料あり。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時間を設けている。改訂時等は説明し、同意を得る等説明し理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置やケアプラン更新時には要望を伺い、運営に反映させている。	前回の外部評価の時に「家族同士が話し合い、気軽に質問してもらえる場面を」という提案をしたが、昨年9月敬老の日に「参観日」として家族にも多数参加してもらえたと言った。とても良い試みだったと思う。	昨年実施した敬老の日(参観日)の反省の中に「これからもこのような行事を継続して欲しい」という意見も見られた。このような場の積み重ねの中から貴重な意見や思いがホーム側に伝わるのではないかと。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を求めるがなかなか意見が出ず、少しでも提案が出る様に意識付けをしている現状。	夜勤以外の全職員が参加する施設内研修では意見交換の時間が十分には取れないので、日常的なコミュニケーションの中や「伝達簿」の利用で工夫して職員の意見を聞くようにしている。管理者は職員に積極的に提案して欲しいと願っている。	少ないマンパワーの中で職員は全体に目配り、気配りをしながら手際良いケアや業務をこなしているし、突然のヒヤリングに対してもしっかりと自分の考えを述べている。忙しい業務の中ではあるが、工夫次第で、もう少し職員の提案が実を結ぶ仕組みが出来るよう頑張りたい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	面会者やご家族により実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝言や職員が少しでも気分転換を図れるよう時間の確保を施行。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修や施設外での研修を受ける機会を設け、ケアの向上を目指している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の交流を利用し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い、ご期待に添えるようなケアプラン作成に努め、関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の思いを伺いケアプランを作成し、更新時、状況変化時はその都度ご家族に報告し連携を図る。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性についても話し合い、ケアの向上に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今の一時を大切に、職員と共に役割を持って頂き、少しでも楽しみを見つけて頂くようにして頂く。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の変化等その都度ご家族と連携を取り、受診時の連携を取っている。又、ご要望に沿えるように努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等、次回の面会につながる様な対応を心掛けている。	このホームが開設された当時の様な活動的な日常が少なくなっている現在、馴染みの人や場所とのつながりはどうしても希薄になりがちだ。しかし、積極的に出掛けられなくても、近所の友達に連絡して面会をお願いしたり、家族にそのようなチャンスを考えてもらえるよう仕向けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し、気の合う人同士の席を近づけたり、困難な方には職員が関係を築けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ご家族と交流とまではいかないが、利用当時についての思い出話等の会話あり。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添えるよう、不穏時の気持ちに添えるよう傾聴やケアプランでの検討の実施。	このホームでの暮らし方は、利用者それぞれの希望に限りなく近付けられるよう、職員はカー杯支援している。その時、その時が楽しく、ゆったりとしたリズムで生活できるよう、また、希望する人にはそれぞれの役割も果たしてもらっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やご家族へ経歴を尋ねたり、利用者様との会話の中で把握に努めたりしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察や伝達簿等の利用にて状態の早期発見や見逃しの無いように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を伺いながら利用者様の向上につながるプラン作成をし、又、モニタリングや随時の話し合いをしながら作成している。	管理者・ケアマネージャーが中心となり、職員の声も取り入れながらプランを作成している。「おまかせします」と言う家族も居るが、出来る限り本人・家族の意向を取り入れようとしている。	分かり易い個別の「入所前・入所時」のフェイスシートを作成していても参考になる。これに「入所後のトピックス的な気付き」がファイルされると今後のケアプラン作成・モニタリングに役立つと思う。そして時々見直しケアに活用したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録をし、気づきを養い、それを読むことにより情報の共有化としている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴し、出来る限りのご要望に沿えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり、避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じた対応をし、ご家族と連携を取りながらの医療を受けている。	このホームのかかりつけ医は定期的に全員を往診してくれているし、敷地内の施設往診の際、ここへも立ち寄ってくれる。今日もちょっと覗いて様子を聞いていた。本人・家族そして職員も安心だろと思う。受診支援では、職員と家族がよく協力している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し、協力医療機関による受診等の必要な指示はある体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり、又、早期の入退院も考慮して頂ける関係作りはある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応方針があり、入所前の説明時や契約時にご家族には説明をしている。	開設以来本格的なターミナルケアは経験していないが、対応については研修をしたり話し合ったりしている。事業所としての方針も定めており、家族には支援の取り組み等伝えている。今後 ユニットになる事も想定し、医療連携も強化しながら、より明確な対策を準備しているところである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会(救急蘇生法)の実施やマニュアルあり。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や隣接する施設との協力体制による年2回の避難訓練を実施。	ホームが平屋である事、隣接の施設と協力関係がある事、昨年スプリンクラーも設置した事等、安心材料は多いが、定期的な避難訓練や消防設備点検等、確実に災害対策を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に念頭に置き、今を楽しんで頂けるような配慮、本人を傷つけない言葉掛けを心掛けている。	「自分一人の力で暮らしている」という自信を持っている人に対しては、そのプライドやプライバシーを最大限に大切にしながら殆んど居室で暮らしている。人形を子供と思って接しているその人の世界を壊す事の無いよう、声掛けに気を付けている。この配慮は何年も続いているからそれぞれ穏やかだ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂き、その日の気分や体調に合わせて対応を実施。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日でも多く笑顔のある日が過ごせるような言葉掛けをし、希望に沿うよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等、衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺い、おしゃれ、衛生面の注意を図る。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き等の役割を持って頂いたり、旬の物の取り入れや庭栽培の利用、行事等に応じたメニューや職員と共に後片付け等をしている。	朝のレク(体操・その他)が終わって約1時間間に昼食の準備をしたと言う当番の職員の料理の素晴らしい事。冷蔵庫の中の食材を見て献立を立てるのが常と言うが、これは中々出来る事ではない。美味しく薄味で栄養バランスも良い。利用者は殆んど完食のようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量は把握し、毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し、能力に応じたケアや歯科医による口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し、個々に合った方法を考慮し対応・排泄なし時の申し送り等。	洗濯物の中に布パンツが多い。あゝここは頑張っていると思う。どうかゆっくり介助されながら立つ・歩くができる人に上手く声掛けて自分で排泄できるよう支援している。便秘対策にも力を入れている様子が記録から伺える。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取困難者にはケアプランへの取り入れや個別対応を実施し、個々に合わせた提供をして取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて毎日の入浴の実施。家庭同様に夜間入浴の実施。	一人ひとりの状態やその時の気分に合わせるが、大体昼5人・夜4人位の入浴となっている。入浴もできる事は自分でして頂く事を基本的に声掛けをそれぞれ工夫している。風呂に入りたくない人を無理に入れるようにはしていない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂くよう声掛けし、良眠につながる支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、変化時はその都度伝達簿を利用し、申し送りにて理解している。又、与薬ミスの無いよう重複チェックの仕組みを実施。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き甲斐、楽しみとなるような役割を持って頂いたり、好きなテレビ番組を見たりして頂き、気分転換を図る。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方からの面会時の車での外出予定時の時間の連絡により、利用者様へ酔い止めと薬等の連携を図る等の支援。	アウトカム項目でも自己評価しているが、かつてのように行事として全員で外出したり、行きたい所へ積極的に出掛ける状況ではなくなっている。但し、外出できる人は良い季節には近くを散歩したり、家族が外出支援する事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別対応にて購入希望により食材買い出し時の購入により、所持金よりの支払いもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様が手紙を書く事はあまり無いが、ご家族の面会はよくあり、遠方のご家族とは電話にて連絡をしている。又、会話困難者には職員が状況報告している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を利用し、季節の野菜を利用者様と植えたりして利用者様の目を楽しませている。	一人ひとりの身体の状態の変化に合わせてリビングでの生活配置や座り心地を変えてみる等、常に創意工夫をしている。各々の居場所の確保や状況により転換も試みている。ソファの並び方も前回とは異なっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共に生活し、相性の悪い方達がトラブルにならないよう席の配慮や予防に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、ご自分のタンスの持ち込み等あり。	殆んど居室で暮らす人や居室で横になる事が多い人も居て、このホームでは各居室は重要な生活空間である。かつての暮らしや離れて暮らす家族とつながる物も持ち込んだり、何でも食べさせてあげたい子供(人形)も同居している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一日中居室対応者もあり、職員の訪室によりコミュニケーションを図り環境づくりをしている。		